

埼玉県まなびいプロジェクト協賛事業
羽生市学びあい夢プロジェクト事業

埼玉純真短期大学

第10回特別支援教育・発達障がい研究セミナー

「特別支援教育への思いと挑戦」
～インクルーシブ教育の実現を目指して～



令和4年11月5日(土)

会場 埼玉純真短期大学

主催 埼玉純真短期大学

後援 埼玉県教育委員会・羽生市教育委員会・行田市教育委員会
加須市教育委員会・熊谷市教育委員会・秩父市教育委員会
埼玉県特別支援教育研究会

目次

1. 目次	1
2. 発刊のことば	2
3. 開催要項	3
4. 講座	4
5. 講演	24
6. アンケート報告	30
7. あとがき	34

発刊のことば

「特別支援教育への思いと挑戦 ～インクルーシブ教育の実現を目指して～」をテーマに 10 回目の記念となる本年、「研究セミナー」が開催されました。

今回の特別講座は、立教大学現代心理学部教授の大石幸二先生による「今子どもの育ちをあらためて考える～学びを支える基盤として大切にしたいこと～」と題してのお話でした。お話は「子どもひとり一人が実り多い人生を歩み、幸せを実感しながら他者とともに生きるために、多様な経験を保証する環境を整えることが重要である。そのために教師には感受性と省察が求められる。このようにして子供を中心に据えた関係者との対話が重要である」との示唆に富む内容でした。

続いてのご講演は、秩父特別支援学校前教諭の高橋浩美先生による「音楽で心と心を繋ぐ～「旅立ちの日に」その後～」と題して、生徒に寄り添う教育の重要性を 3 年間、先生とともに歩み、頑張りとおした生徒への想いとこの曲が生まれ、合唱コンクール参加への裏話、本日のサプライズ、さらには障害のあるお子様の音楽との出会いなど、時折、涙を交えながらお話くださいました。

コロナ禍の影響がなければ、ご講演とともにワークショップが開かれる予定でしたが、特別支援保育・教育の現場で日々ご熱心な取り組みをされている先生方、そして日頃より特別支援教育や発達障がいに関心をお持ちの多くの皆さまのご参加をいただくことができ、今回の研究セミナーは短い時間ではありましたが、学びのある貴重な時間であったと感じております。

また、ご多忙な日々の中、埼玉県教育局県立学校部特別支援教育課長の橋本晋一先生、羽生市教育長の秋本文子先生、埼玉県特別支援教育研究会会長の内河水穂子先生（代理：千石大吾先生）、あゆみ学園施設長丑久保先生はじめ、埼玉県教育委員会部長の細村先生、そして熊谷市教育委員会、加須市教育委員会、行田市教育委員会、羽生市教育委員会から指導主事の先生方をはじめ多くの方々にお越しいただきましたこと、あらためまして心より感謝申し上げます。

この研究セミナーは平成 19 年度から文部科学省委託事業として実施いたしました「軽度発達障害の幼児童に対する特別支援力養成のための教育職員再教育プログラム」を引き継いだ形で実施いたしております。現在、「インクルーシブ」の考え方は、教育現場はもちろん日常生活でもアタリマエの時代です。共生社会形成に進むこの時代、教育に携わる先生方や地域の皆さまと情報の交換と共有を行い、お互いの理解を深め、少しでも教育現場や地域社会のお役にたてればとの考えで、この研究会を毎年開催いたしております。

小規模保育者養成短大の研究セミナーではございますが、一つひとつの積み重ねで、「特別支援教育」への理解と支援が繋がり、広がっていくことを願ってやみません。

最後に、会の運営と報告書作成にご尽力いただきました研究セミナー実行委員長の原口政明先生はじめ運営に携わっていただきました皆さまに心より御礼申し上げます。

2022 年 11 月

埼玉純真短期大学 学長 藤田 利久

開催要項

「特別支援教育への思いと挑戦」

～インクルーシブ教育の実現を目指して～

日 程 令和4年11月5日（土）
会 場 埼玉純真短期大学
主 催 埼玉純真短期大学
後 援 埼玉県教育委員会
羽生市教育委員会・加須市教育委員会・行田市教育委員会・熊谷市教育委員会
秩父市教育委員会・埼玉県特別支援教育研究会
参加者 特別支援教育・発達障がい等に関心のある方

時 程

13:00～13:20	13:20～13:35	13:40～15:10	15:20～16:50
受付	全体開会行事	講座	講演

講座

いま、子どもの育ちをあらためて考える
～学びを支える基盤として大切にしたいこと～

立教大学現代心理学部教授 大石幸二

子どもたち一人ひとりが実り多い人生を歩み、幸せを実感しながら他者とともに生きるために、私たちには何ができるでしょうか。子どもたちの多様な経験を保証するような環境を調えることは、私たちの責務です。しかし、それらは子どもたちを中心に据えて、関係者との対話を通じて達成するしかありません。そのために、私たち教師には、感受性と省察が求められます。育ちと学びの支援について、いま大切にしたいことをお話します。

講演

音楽で心と心を繋ぐ
～「旅立ちの日に」その後～

前埼玉県立秩父特別支援学校教諭 高橋浩美

卒業ソング「旅立ちの日に」は1991年に秩父市立影森中学校で生まれました。3年間共に頑張った生徒達へ、世界にひとつしかない、感謝の気持ちを込めたプレゼントです。この曲には愛と希望と勇気が込められており、30年たった今では、日本だけではなく、世界中のたくさんの言葉でも歌われています。先生は、秩父特別支援学校へ転任後も、音楽を通して生徒に寄り添いながら、特別支援教育に情熱を注いでいます。これらの経験をもとに、音楽と特別支援教育について考えていきます。

「特別支援教育への思いと挑戦」
～インクルーシブ教育の現実を目指して～

「いま、子どもの育ちをあらためて考える ～学びを支える基盤として大切にしたいこと～」

立教大学現代心理学部 大石幸二

1) 学びを支える基盤としての育ち

1-1. 子どもの育ちの形を捉えることの重要性

- ・節目の時期をしっかりと意識する（脳の容積の拡大に伴う変容を知る）

<3歳の特徴>

脳の容積が大きくなる。第一次反抗期。

万能感→自分が大事にされている感覚を、小さなころから持てるか。「声を掛けられる・触れられる・一緒にいてもらう」等の安心感がこの時期に与えられるかが重要。

忙しい等で、これらのことができない家庭や環境があることも考慮に入れた上で、切れ目のない、繋がりのある支援ができることが大切。

<学童期の特徴>

自分が行っていないくても、誰かがした体験について「なるほど」と思う。憧れの対象が行ったことを自分が行ったかのように思える。（ミラーニューロンの発達に伴って）

見ようとする・聞こうとする・伝えていこうとする力→ 意図・意思が拡大。

<思春期の特徴>

自ら外界をコントロールする…自律の力が大切。

SOSを発しても解決されないと、自分と人を比べて、自分のマイナスにばかり目が向いて、自己理解・自己受容がもちにくくなる時期。

*以上のことを考慮に入れた上で、生まれ方、生まれた地域によって子どもの現実が変化するのではなく、どの出自でもどの環境でも自分の力を発揮できることが大事。

1-2. 通常学級における「積極的傾聴」力（アクティブリスニング）について

<大切さと意義>

アクティブリスニング…心を働かせながら、相手が言わんとしていることを聴くこと。

（ただ聞くだけでなく、自分なりの意味付けをもって行動することに繋がる）

→主体的な行動（主体を働かせて学ぶ。自分なりに意味が分かって行為できること）が大事。

<年齢に応じた能力の変化>

最後の最後まで話を聞くことができる力が、中学生になると、どんと落ちる。

メモ取り（体を動かして記憶を宿す行為）も大事。ただし、小4以降では体を動かしながらの記憶は低下する。（聞き取りを持続させて考えを進めていくことは難しくなる）

1-3. 特別支援教育で行われている方法の良さ

「言語だけでなく、身体全体で伝える方法」は、特別支援教育でよくなされており、通常学級にも活用できる大切なこと。どのように互いの体を使って響き合い、伝え合えるかが大事。

○8～9歳までに傾聴の基盤を作って、小6から個別化するのが良い。

2) 教師が行う価値ある指導・支援

<良い例>

生徒たちの身体の構え・力の入り具合をよく見ている。

呼吸のコントロール（緩急等をよく使い分けている）を行っている。

視覚に訴える（見るべきポイントが明確なら、視覚に訴えるのは大事）。ただし、聞きながら記憶に残る力のある子どもなら、言語の方が伝わりやすい。

注意して聞くように声掛けをする。

他の子どもの発言に注目させるなどの取り組みは、有効。

<指示の出し方への配慮について>

「指示の掛け方で子どもが変わる」と言われていた（H12年時点）

指示が分かるようになった子は、目的地や目標に歩みだせるから、自立的になる。

子どもが自分で最後まで管理する能力が育つ。指示が、「見える・残る・分かる」等の配慮

<教師の観察/まなざしは、目に見えない指導になっている>（鉛筆の持ち方、姿勢など）

教師が児童生徒の課題従事を一貫して見守ることが大切。

観察しながら子どもの状況に合わせて、顔の表情、声のアクセント、声の表情を変える先生だと、適切な行動に進む頻度が1.8倍になる。

新学期の鬱の谷間がくる前にしっかりと観察を行い、まなざしを向ける。

<子どもが間違えた答えを言った（発表した）時の、教師からのまなざし>

子どもの態度・関心・意欲を評価する。答えが合っているかどうかで評価するのではない。

そうすると、友人同士でも、答えを間違えた子どもを受け入れることができる。

できたかどうかではなく、「そうしようという意思」を褒めることが、とても重要なこと。

それを教室で共有していくことが大事。

3) 指導・支援による児童生徒の変容

<対話支援の方法の違い>

低学年の担任教師…うなずきながら最後まで子どもの言葉を聴く。繰り返す。こうすると、とても子供は勇気づけられる。学ぶことについて価値あることと思える。子どものポイントを即座に板書するのも、子どもにとって記憶に残る良い方策。板書→フィードバックとして良い。

*子ども同士の体の動きも一体化していく。

高学年の担任教師…個人差を考慮の上、既習事項（前の時間で行ったこと）を確認後、発問の工夫や個別化を行う。

*低学年でも、高学年でも、体を話し手に向けることはとても大事。

<積極的傾聴の個人差・格差が生まれる学年について>

①積極的傾聴の基盤は、6～9歳で形成される。

身体を向け、向かい合い、心で唱える聞き方

②傾聴の運用力は、10～14歳で形成される。

最後まで聴き、要点を捉え、意図を汲む聞き方

*小学6年生で、自己意識の働きが明確になる。

考えながら聴き、聴きながら考える姿をフィードバックすることが大切。

→パラフレーズ(=簡潔な言い換え)、メモライズ(=記憶)、効果的な質問、非言語的表現
↳聴く力に良い影響を及ぼす

埼玉県での取り組み例

子どもが耳を澄まして、考えながら聴こうとする力を育てる取り組みの例。

<身体に響き合う支援…埼玉県の取り組み(体に軸足を持って行う支援の例)>

○手のひらの合図だけで身体を切り替える運動練習の例(一斉に立ったり座ったりできるか)

…身体を向けて、音を聴いたり捉えたりしていく。言葉以上に、動きを見なければならぬ。

*最近の子どもは、教科書を開くまでも時間がかかる(5・6ステップかかる)

全体を見て、子どもたちが教科書を開くまで待つ教室・待たない教室の違いがある。

子どもを待って、同じスタートを切れる教室が作れるかは重要。

○聴写活動の例…1回しか言わないことをよく聴いて、紙に書く活動。

同じ8分節でも…再生率50% 「ラクダ」の説明文→映像が頭に浮かぶため

再生率20% 「カブトガニ」の説明文→映像が頭に浮かばないため

*映像化できる言葉の方が、記憶として定着している。教師が話すときにも、映像化できる語り方、例の出し方が子どもの記憶の定着に関わってくると言える。(音のキャッチに違いが出る)

○大事なことはあえて小さな声で言う。

「1回しか言わないよ」 → 子ども「はい」(ここで構えができる) →聴く力が育まれる。

<積極的傾聴力を高めるために教師ができること>

生徒たちが自ら「聴くこと」を主体的に活用できるとよい。中学校になると65%ほど言葉を使った活動になる。高校になると70%以上言語活動になる

生徒が言葉に注意し、言葉から大事なことを取り出し、言葉を聞いて補いながら意見を出せるようにするには…

*学ぼうとする「意欲」を高めること

- *先生の目、先生の「声」をよみがえらせることができるような働きかけ
- *記憶する行為なしに、その場面を思い出せるような環境、雰囲気作り
- *エンジンをたきつける方が、記憶に残りやすい
- *挑戦しようという意欲を褒め、努力を認め、粘り強く行動しようとする姿を高める
- *机間指導が重要（しかし、素通りされる子が出る。素通りされることが多い子は、期待をかけられていることが感じられない。教師は素通りに注意しなければならない）
- *まずは全体にむけた眼差しが大事

4) 子どもの育ちを支える授業

承認感（認められ、居場所がある、気づいてもらえる安心感）
 有用感（自分は集団の一員。役割がある。期待を感じる） 自立的な態度が更に必要。
 自己信頼感を高める方法…教師のフィードバックの中の「非認知的能力」
 …共感性の土台になるもの

- *他者への関心・他者と共にあることの豊かさを実感できるように
- *グループワーク・協働学習
 - …他者とともに感情をシンクロさせながら。情動的な部分を耕している。
 - 人と対話するときに、生徒が「我」を語るができるようになるように。
 - *個別の語りの大切さ *個として活かされる経験

<万人のための学校の創造>

少しでも学びやすい方向に動かそうと、子ども達と共に動き出している学校
 →万人のための学校に向けて動き始めている。

相談を受けた園の実例から（相談内容のメールから見える大切な事）

子どもの強み・良い持ち味（育てたい良い特性）を最初に書いてある。
 その後に相談。本人の困り感を、その後に述べている。
 現場での対応について具体的に述べている。その後の迷いを書いてある。
 その後にしてあげられる支援についての相談が書かれていた。

↳ このような内容を書いてくれる先生がいると、相談に乗る側も、関係性・状況について分かった上での対応ができる。現代は、家庭環境も多様。「行動抑制」方向でなく、レパートリーを広げようという、この先生のような視点は大切。

協力体制やデータを活用する

・巡回相談など、協力体制を活用して、学校だけでなく取り組んでいくことが可能。
 「ほんとうのわたしを見つけて」の活用…全ての子どもについて取って、把握すると良い。
 春頃に行うとクラスとしての「強み」が見えてくる。「弱み」も見えてきて、工夫に繋げられる。

*先生方が実は持っているが当然として語ってこなかった感受性、支援方法などを「語り合い」、他の先生方へ自信を持って大切なこととして伝えていくことの重要性についてもお話されました。

（文責 埼玉純真短期大学 細田香織）

レジュメ

2022年11月5日(土)
(13:40~15:10)

埼玉純真短期大学 第10回特別支援教育・発達障がい研究セミナー
「特別支援教育への思いと挑戦～インクルーシブ教育の実現を目指して～」

講座

いま、子どもの育ちをあらためて考える～学びを支える基盤として大切にしたいこと～
大石 幸二(立教大学現代心理学部)

1) 学びを支える基盤としての育ち

2) 教師が行う価値ある指導・支援

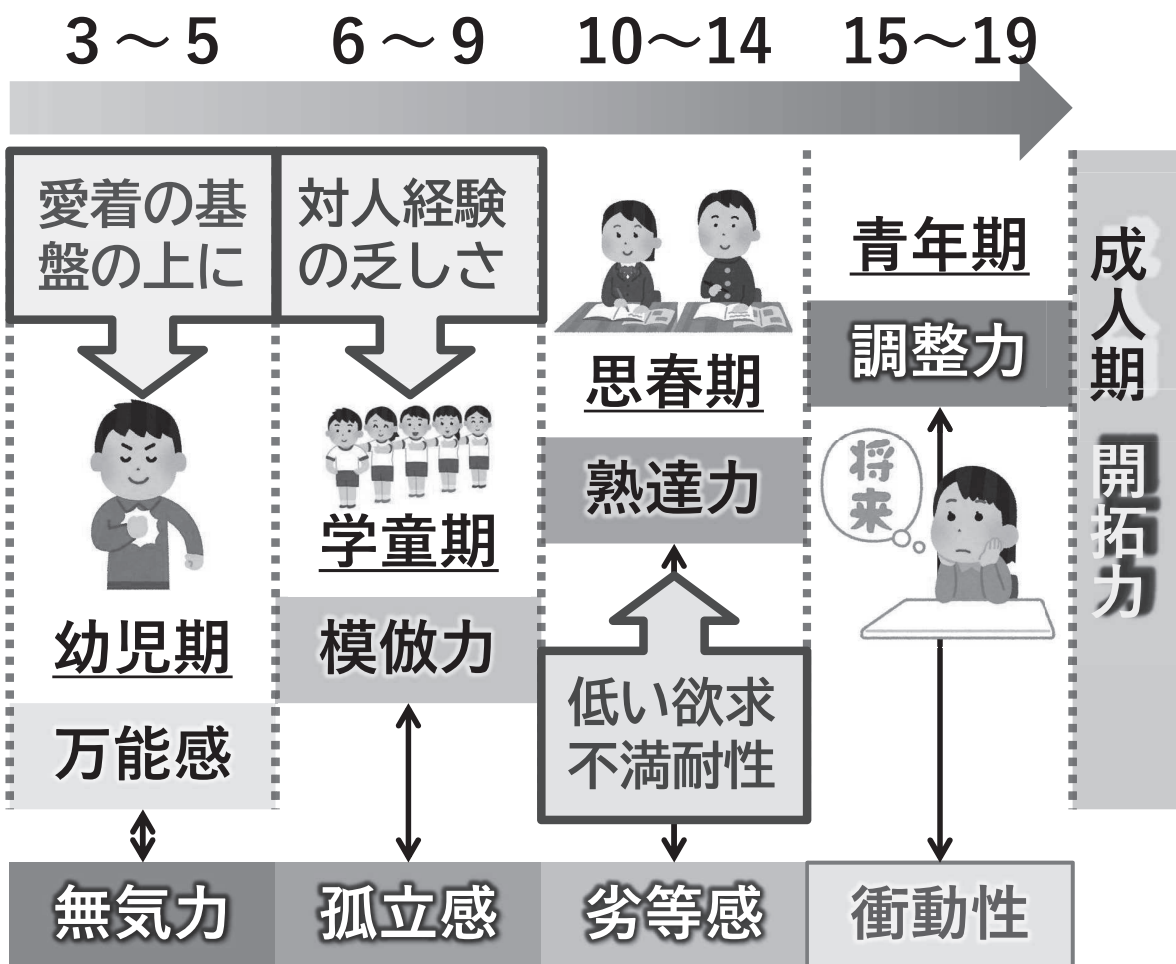
3) 指導・支援による児童生徒の変容

4) 子どもの育ちを支える授業

補足：個と集団の両方を意識

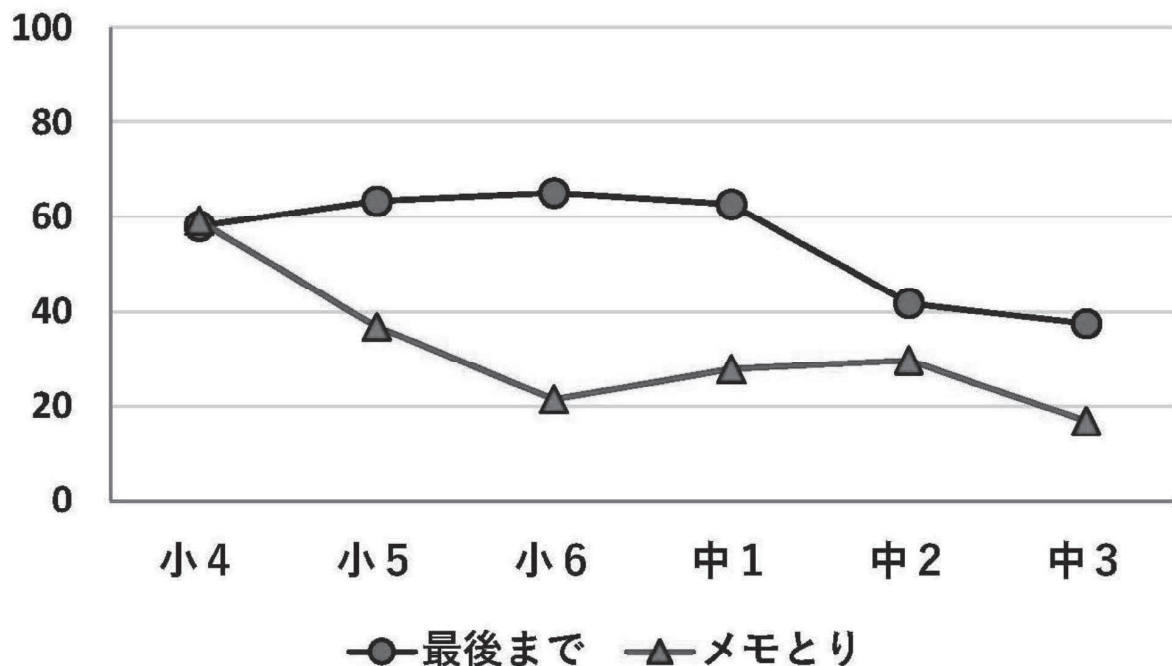
(※講座の中では、直接言及できないかもしれません。ご了承ください。)

学びを支える基盤としての育ち



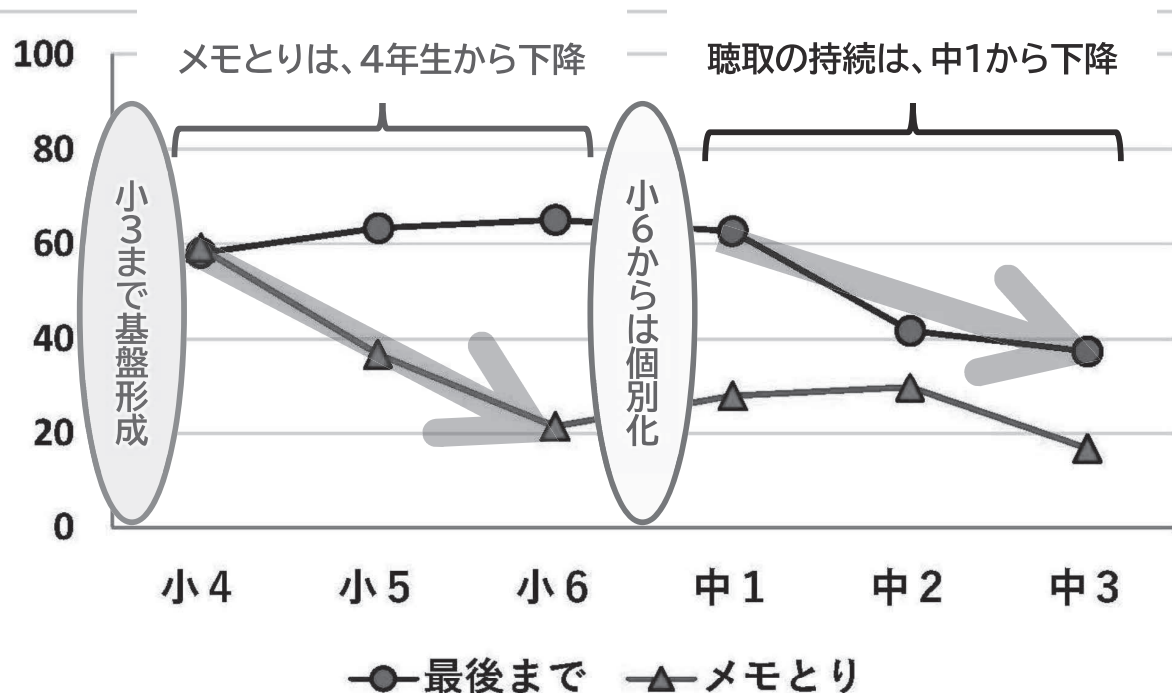
積極的傾聴に個人差・格差が現れる学年

「自己意識」の働きによる自己評価値低下(増田・植西 1998)

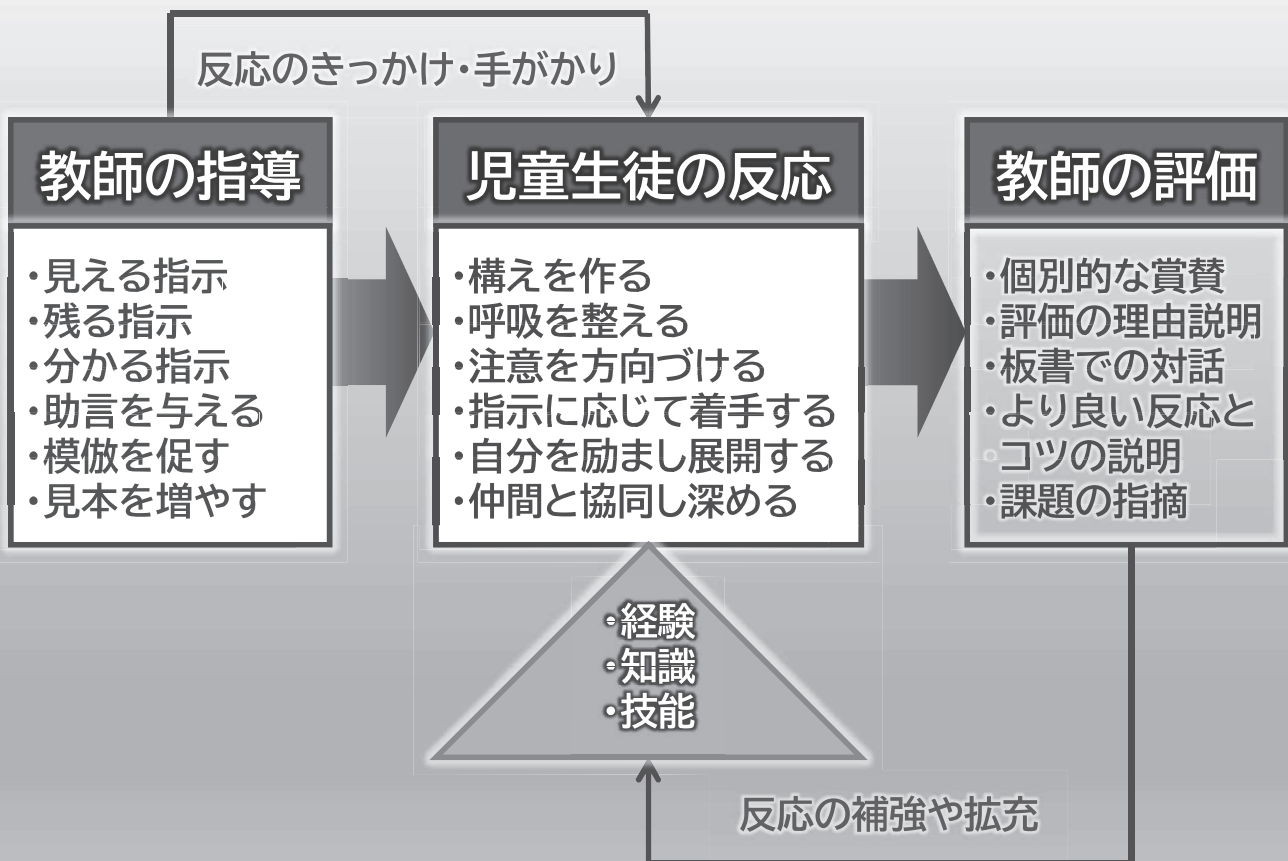


積極的傾聴に個人差・格差が現れる学年

「自己意識」の働きによる自己評価値低下(増田・植西 1998)

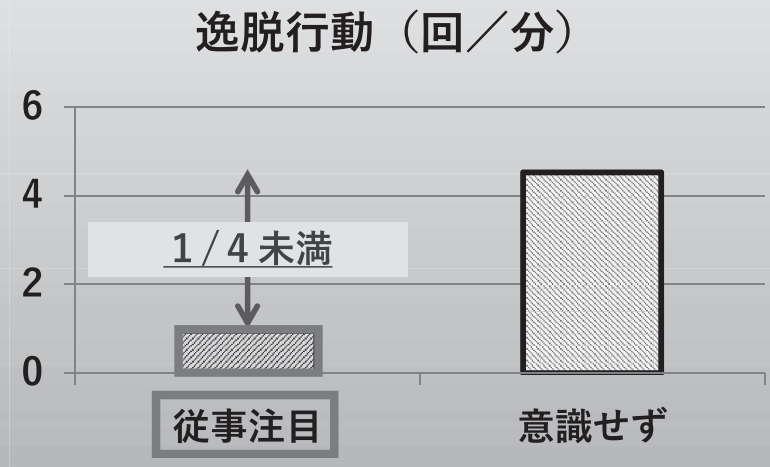


教師が行う価値ある指導・支援



Teacher Observation Effect

まなざしを向ける (Hall et al., 1971) ⇒ 行動の自己管理



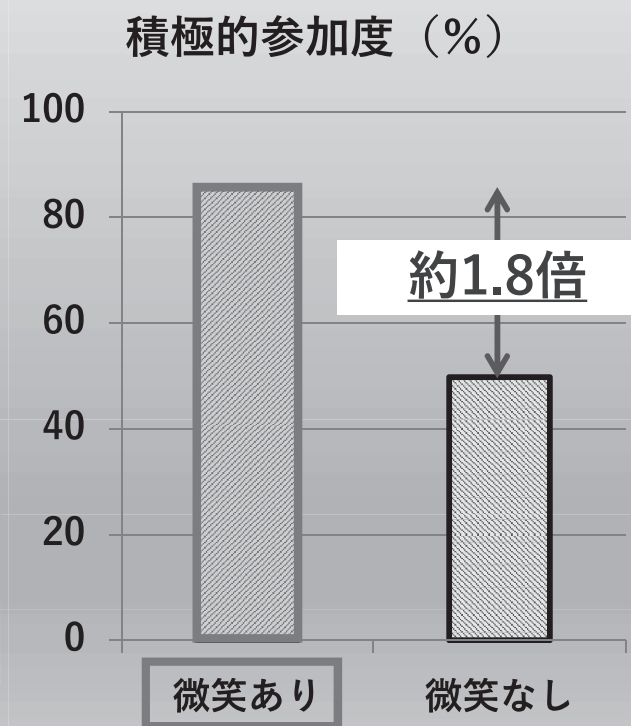
教師が児童生徒の課題従事に
一貫して眼差しを向けると
逸脱行動を減弱する効果あり

Teacher Observation Effect

笑顔でうけとめ (Kazdin et al., 1973) ⇒ 意欲の自己管理

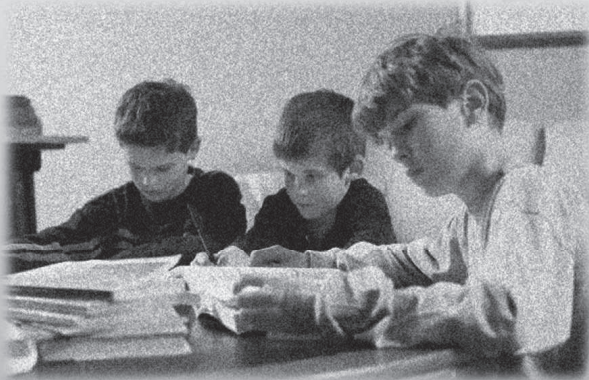


言語賞賛時の教師の微笑は、児童生徒の意欲
・ 動機を倍増させる



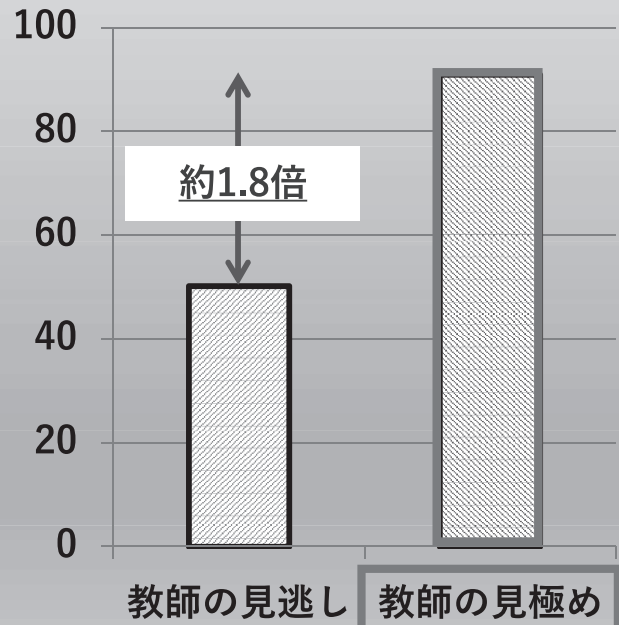
Teacher Observation Effect

めばえのキャッチ (Lancioni et al., 1982) ⇒ 関係の自己管理



教師が児童生徒の適切行動を見逃さずにその芽ばえ反応を評価するとき、児童生徒の他者受容度が高まる。

他者承認の出現率 (%)



指導・支援による児童生徒の変容

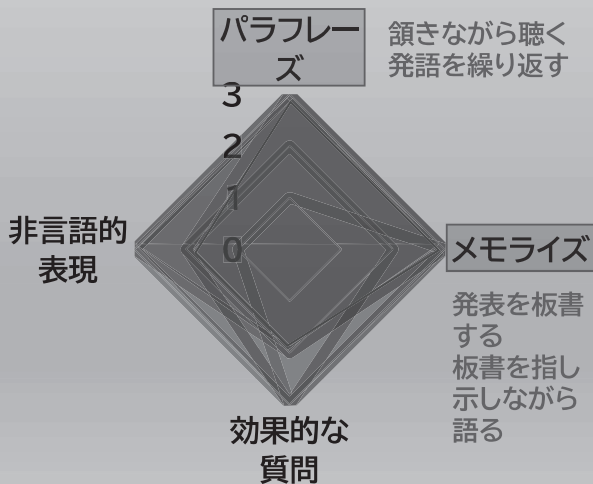
教師の対話支援の違い（*高学年では60%達成）

低学年の担任教師は、児童の発語・発話を頻繁に反復し、それらを板書して返す

高学年では、個人差を考慮の上、既習事項を確認後、発問の工夫・個別化を行う

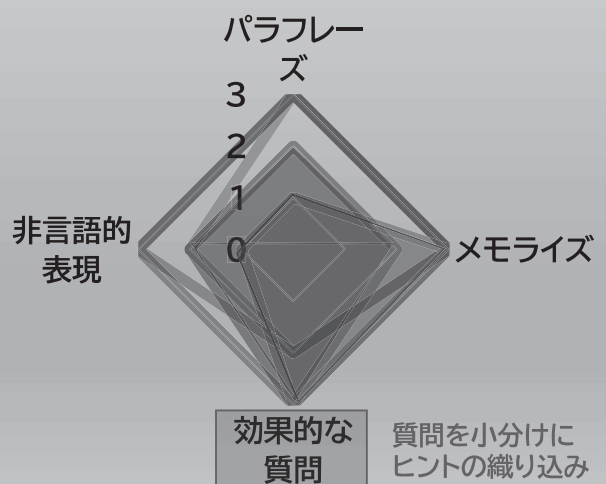
教師の対話的な学びの支援

—1年 —2年 —3年 —5年 —6年



教師の対話的な学びの支援

—1年 —2年 —3年 —5年 —6年



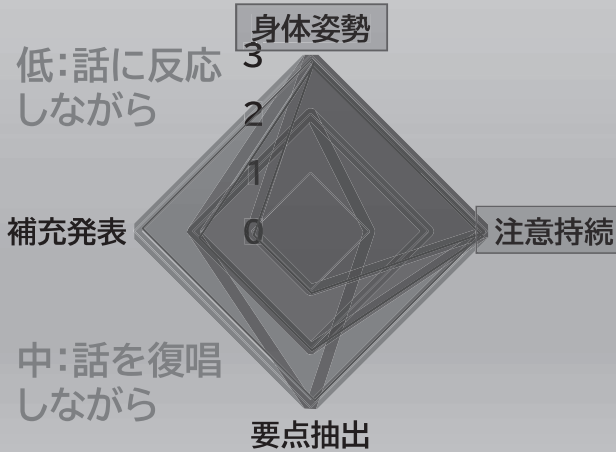
積極的傾聴の発達差（*高学年では60%達成）

低学年では、聴く姿勢と、最後まで聴こうとする態度の評定値が高くなっている

高学年では、聴く姿勢と共に、要点を抽出し、補充発表に活かすことができる

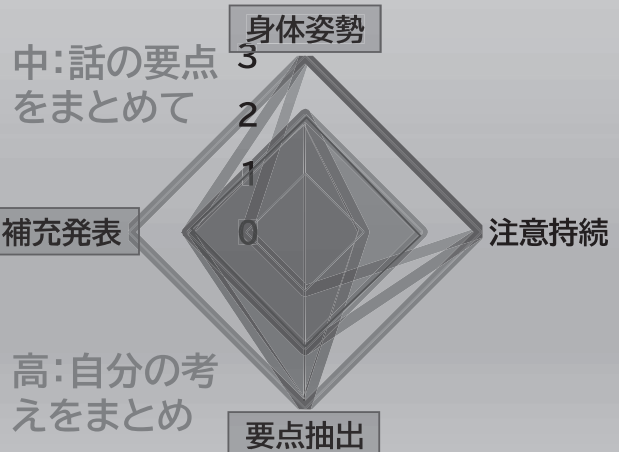
子どもの聴く力の高まり

—1年 —2年 —3年 —5年 —6年



子どもの聴く力の高まり

—1年 —2年 —3年 —5年 —6年

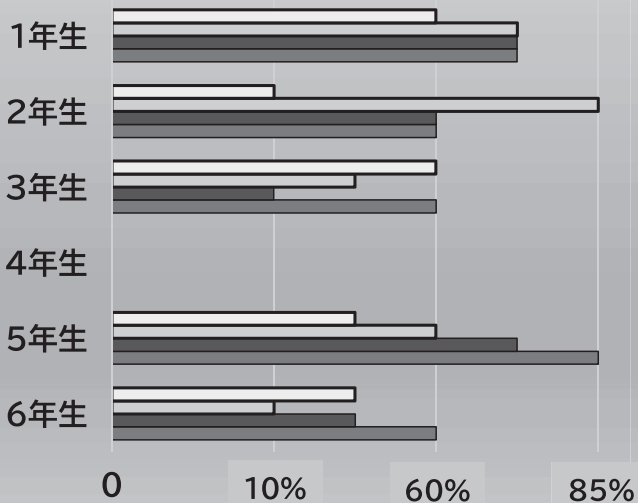


児童の積極的傾聴と教師の対話支援の結果

低学年では、注意を続けられるよう、質問前の情報整理を徹底
高学年では、補充発表力を高めるよう、考えながら聴くを実践

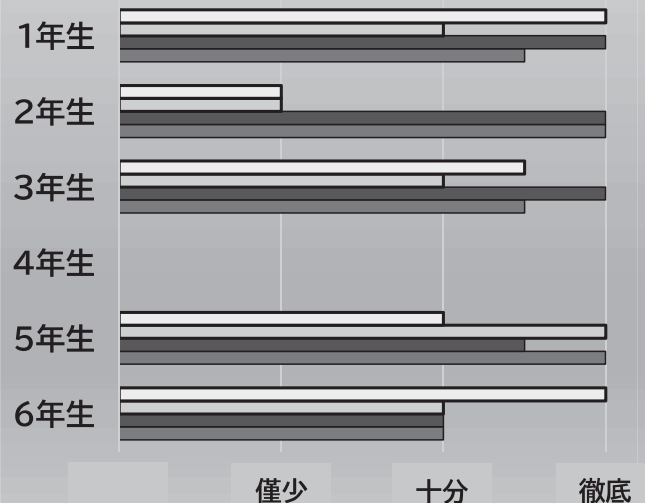
子どもの聴く力の高まり

□補充発表 □要点抽出 ■注意持続 ■身体姿勢



教師の対話的学びの支援

□非言語的な表現 □質問前の情報整理
■板書を用いた対話 ■パラフレーズ



積極的傾聴に個人差・格差が現れる学年

「自己意識」の働きによる自己評価値低下(増田・植西 1998)

(1) 積極的傾聴の基盤は、6～9歳で形成する

① 身体を向け、② 向かい合い、③ 心で唱える聴き方
低:話に反応しながら / 中:話の内容を復唱し、要点をまとめて

生涯、役に立つ能力：聴く構え



話す人を意識して、身体姿勢をつくる

生涯、役に立つ能力：向かい合い



複数の仲間と向かい合い、耳を傾けています

積極的傾聴に個人差・格差が現れる学年

「自己意識」の働きによる自己評価値低下(増田・植西 1998)

(2) 積極的傾聴の運用力は、10～14歳で形成する

① 最後まで聴き、② 要点を捉え、③ 意図を汲む聴き方
高:自分の考えをまとめて / 中学:内容を補い展開を予想して

(*) 小学6年生で、自己意識の働きが明確になる

考えながら聴き、聴きながら考える姿をフィードバックする

教師によるフィードバック: (a) パラフレーズ (b) メモライズ (c) 効果的な質問 (d) 非言語的表現 → 聴く力に

マイクロカウンセリングの傾聴技法と重なる取り組み

子どもの育ちを支える授業

教師へのフィードバックが子どもの積極的傾聴と学校適応感に及ぼす効果に関する因果説明

子どもの積極的傾聴

- (身体姿勢)
- (注意持続)
- (要点抽出)
- (補充発表)

学びに向かう力

—意志・意欲の喚起—

- (挑戦する意欲)
- (自分を信じ取り組む)
- (粘り強くやり遂げる)

子ども一人ひとりが自分の考えを持ち、積極的に学習参加し、仲間と共に考えを練り上げた(分かち合えた)とき、学級への満足と承認を示す「承認感」だけでなく、仲間の役に立っているという「有用感」も高まる(須藤・安永, 2011)

学校適応感の高まり
—社会性と情動のスキル修得—

- (信頼感)
- (承認感)
- (有用感)

子どもの積極的傾聴

(身体姿勢)
(注意持続)
(要点抽出)
(補充発表)

学びに向かう力

—意志・意欲の喚起—
(挑戦する意欲)
(自分を信じ取り組む)
(粘り強くやり遂げる)

教師のフィードバック

—非認知能力への焦点化—
(受容的な聴き方)
(言い換え、意味づけ)
(感情反射、対話促進)

学校適応感の高まり

—社会性と情動のスキル修得—
(信頼感)
(承認感)
(有用感)

教師へのフィードバックが子どもの積極的傾聴と学校適応感に及ぼす効果に関する因果説明

万人のための学校の創造

- ・ 学習につまずきのある子
- ・ 行動に困難さを抱える子
- ・ 感覚・運動の調整がむずかしい子
- ・ 生育環境が劣悪で、感情の変調を来しやすい子
- ・ 家族機能が脆弱で、社会関係を結びにくい子

(実践・巡回・相談・事例会議・紹介)

一人ひとりの教育支援のキーワード

補足： 個と集団の両方を意識

活用できる評価票（埼玉県）

ほんとうのわたしを見つけて Ver. 2

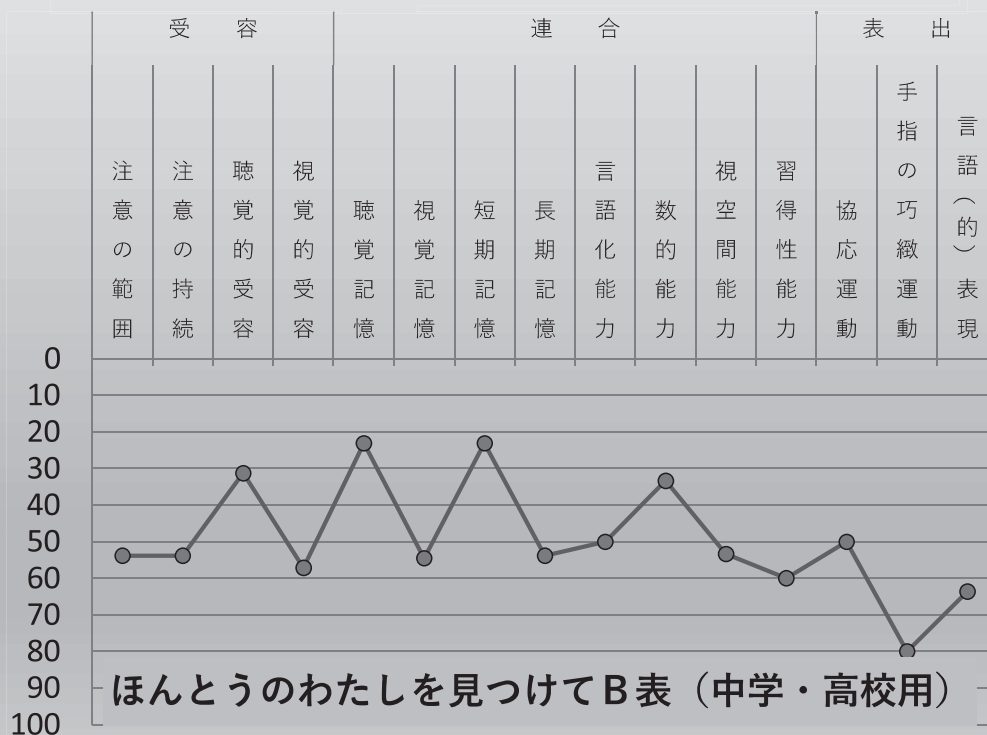
<認知・行動評価表>

平成17年3月
埼玉県立総合教育センター

小学校低学年用

小学校高学年用

見とり 埼玉県の場合



児童生徒の既有技能の評価

注意

- ・ 耳を傾けて聴く

注意

- ・ 見るべきものに目を向ける

操作

- ・ 道具を正しく効果的に扱う

記憶

- ・ 見たままに写しとる

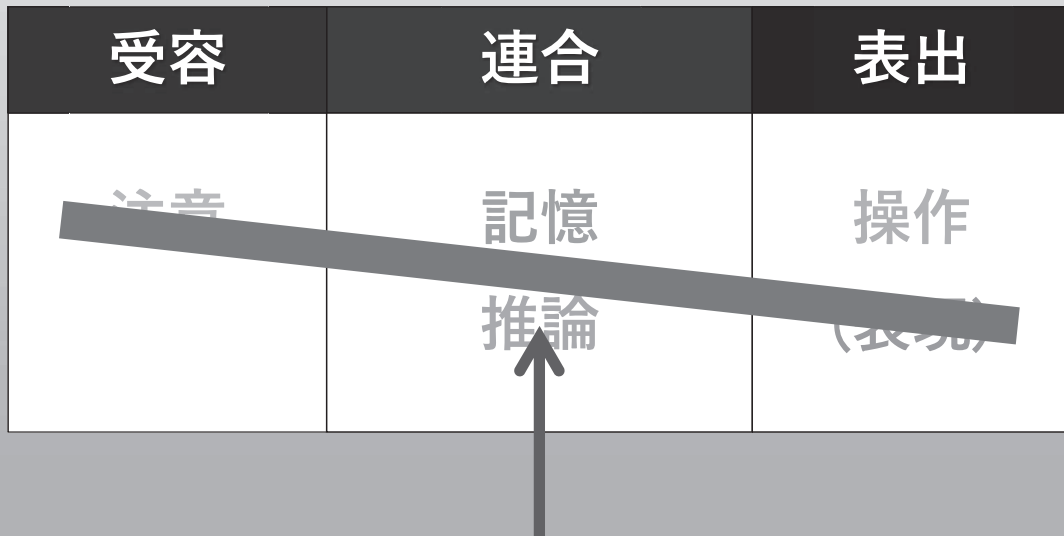
記憶

- ・ 知っていることと照合する

推論

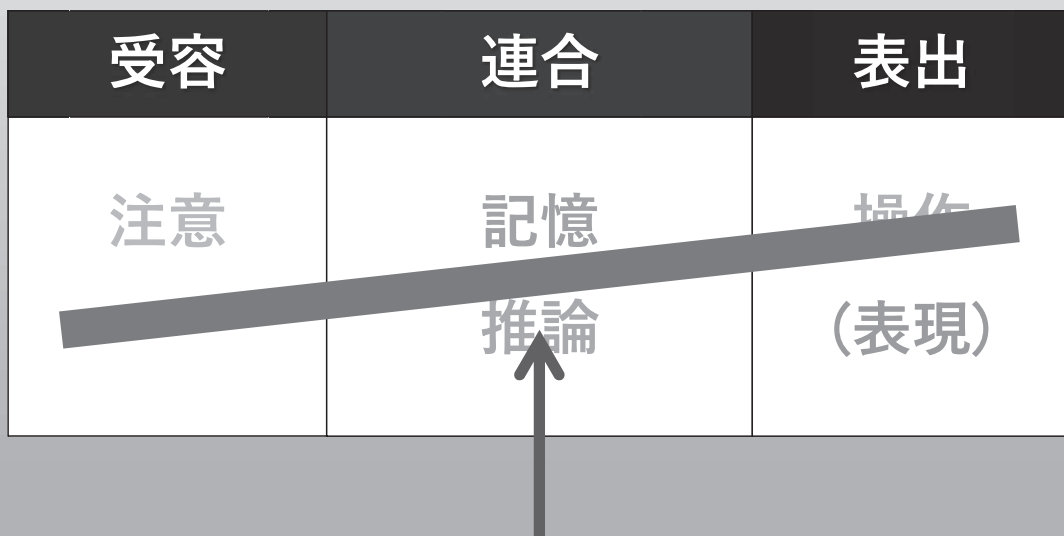
- ・ イメージする、類推する

ほんとうの私を見つけて



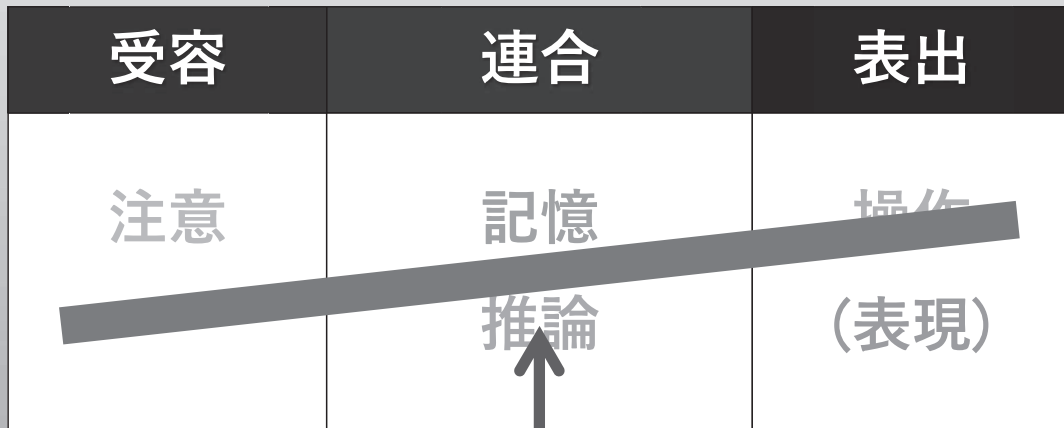
「何を、どうする」を明確にする支援

ほんとうの私を見つけて



見る・聴く対象を絞り、強調する支援

ほんとうの私を見つけて



見る・聴く対象を絞り、強調する支援

ほんとうの私を見つけて

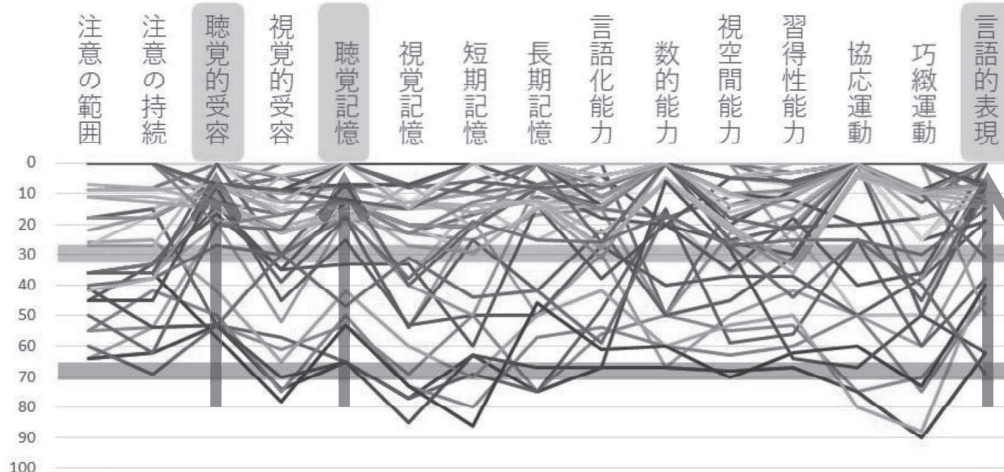


こまめに一時停止させ、確認する支援

学習輪郭表の活用

集団への指導

全校児童（1・4・6年生）の学習輪郭表（重ね描き）

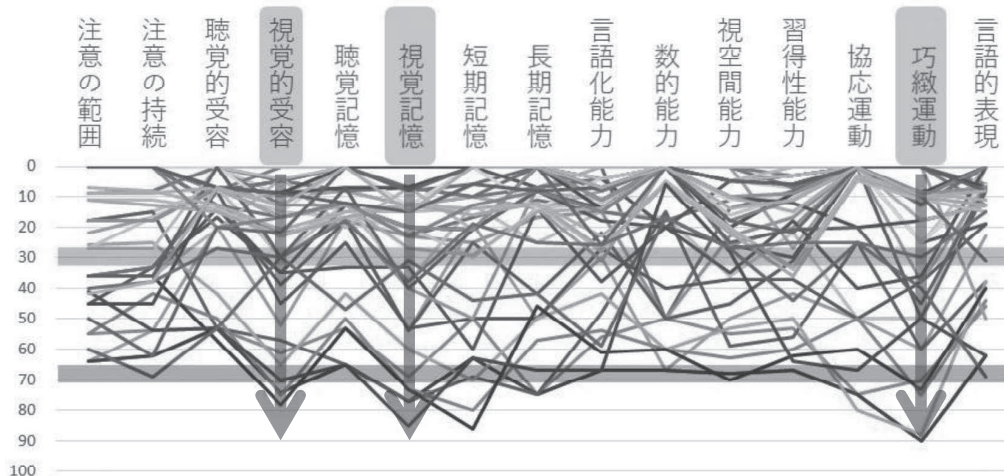


- ① 教師の話（ことば）から活動の手がかりを得ている児童が多い
- ② 教師や仲間の発言にことばで応じることにはあまり問題がない
- ③ よって、教師が指示や発問に気をつけて、児童の言語的表現を引き出すかわりを行うことが指導上有効である

学習輪郭表の活用

集団への指導

全校児童（1・4・6年生）の学習輪郭表（重ね描き）



- ① 意外なことに、パッと目を向ける、しっかり見比べる力が弱い
- ② 一度に複数の情報を与えると、見落としたり、混乱してしまう
- ③ よって、教師が電子黒板や実物投影機などの視覚支援ツールを用いる際は「何を」「どのように」を明確にする必要がある

講演まとめ

音楽で心と心を繋ぐ ～「旅立ちの日に」その後～

前埼玉県立秩父特別支援学校教諭 高橋浩美

講師紹介

高橋先生の卒業ソング「旅立ちの日に」は 1991 年に秩父市立影森中学校で生まれた。3 年間共に頑張った生徒へ、世界に一つしかない、感謝の気持ちを込めたプレゼントとして作曲され、この曲に込められた愛と希望、勇気は多くの人に感動を与え、30 年たった今では、日本だけでなく世界中の言葉で歌われている。



講演

1) 人生を変えた曲との出会いー「ラ・カンパネラ (リスト作曲)」

ピアノを習い始めた頃は、あまり練習せずにいたが、ピアニストの中村紘子さんのコンサートで「ラ・カンパネラ」を聴いた際に衝撃を受け、すぐさま楽譜を購入し、この難曲を弾いてみたい一心で、一生懸命練習するようになった。その後、本格的にピアノを学ぶため、東京の茗荷谷の先生に師事し、音楽大学のピアノ専攻に進学した。

合唱との出会いは、母校の秩父一中である。秩父一中は最優秀賞を取り続ける素晴らしい学校で、そこで合唱の素晴らしさを知った。「この一瞬のために」全員で心をつなげて練習をしていく大切さも知ることができた。

2) 「旅立ちの日に」の歌ができるまで

初めに赴任した学校で、バレー部の顧問も経験したが、昼休み合唱団を作り合唱指導をスタートした。

その 4 年後に影森中学校に異動した。異動した頃は全国的に中学校が落ち着かない時代であった。

学校には廃部寸前のコーラス部があったが、挨拶に来てくれたわずかな 3 年生の部員たち 8 人が、「ぜひ存続させたい」ということを訴えたため、1 年生を入れ、NHK のコンクールの混声合唱に挑戦しようと思った。

しかし、たった 8 人の部員では実現ができないため、音楽の授業のときに、特にそれまで心を開いてくれない男子生徒たちに、「男子の力が欲しい、先生は本気だ」と不安と必死さの中で話し、「希望する人は音楽室で待っているから来てもらいたい」と伝えた。すると、野球部の男子をはじめとして 17 人が来てくれた。

この出来事を機に、授業中はいつも背を向けていた男子生徒たちが、発声練習をする等、

コンクールに向けて前向きな姿勢になった。男子生徒たちが一生懸命練習することを、クラスの女子生徒たちも喜んだ。

生徒たちが真剣に歌に向き合い、3年がたった。生徒たちの卒業の記念に、校長先生と一緒に「世界に一つしかないもの」をプレゼントしたいと考え、校長先生に「卒業する子どもたちに歌を作りたいから、詩を書いてください」と依頼したところ、校長先生からは「無理です」と断られてしまった。

しかし、翌日出勤すると校長先生の詩が私の机の上に置いてあった。なんと、校長先生は一晩で作ってくださったのである。

私は歌詞を見てすぐさま音楽室に向かい、15分程度で、悩むことなく校長先生の詩にメロディーをつけることができ、曲が完成した。詩を見てすぐにメロディーが流れてくる経験は、今思うと不思議な時間だったと当時を振り返った。

完成した曲を早速校長先生に聴いてもらおうと、「素敵だ、内緒で練習してサプライズして歌おう」ということになった。それからは、教員たちで生徒たちには内緒で練習をした。そして卒業前に壇上から、「先生方が皆のために作った歌ができたよ」と語りかけた。歌の2番は先生たち全員で歌った。幸せであり、ピアノを弾きながら涙がでてきた。3年生は何が起きたかよくわかってはいなかったが、感動してくれた。

その後、この歌は手紙や動画、ラジオなどを通して、先生方が積極的に広めてくださった結果、「歌」がたくさんつながり、いつしか中学生の好きな曲でランキング「旅立ちの日に」が1位にもなっていた。

○アイスブレイク

先生の合図で、隣に座った人と互いに肩を叩きあい、リズムを変えるなどで楽しんだ。



3) 特別支援教育との出会い

結婚し、吹奏楽が盛んな学校に勤めていた頃、集団について行けない3歳になる息子に対して不安な気持ちを持っていた。相談するように園から話があり、検査を行ったところ、「知的障害」で療育を頑張るように言われた。「障害」という文字に混乱しながら療育を開始した。

当時、息子に笑顔で接しなければと思うが、できなかった。しかし、母親としての使命は息子が大きくなった時に、私が音楽を頑張っていることを分かってもらおうことと考えた。今考えると、音楽療法や特別支援教育の音楽との出会いは、必然であり運命でもあった。

4) 魔法の声かけ

息子は小学校に上がる時に支援学級に通い、自分は支援学校に赴任した。障害を持つ子の母、先生として2つの仕事をした。そのような日々を、「障害があっても感性を育てることができ、その子自身の素晴らしさを育てること」に意識して過ごした。

様々な特性を持つ子どもを担当し、どのようにすればよいのか、どんな言葉をかけたらよいか迷ったが、「あなたはここにいていいんだよ」という思いや声掛けが何よりも大切であることを学んだ。

5) 特別支援学校の生徒との出会い

ある時、人との関わりが苦手で、すぐ怒ってしまう K くんを担当した。K くんは「とっとこハム太郎」の音楽が好きで毎日聴いていた。K くんをよく見ていくと、「人と関わりたい」という思いを持っていることが分かった。「苦しい時や気に入らない時は相手に伝える」ということを K くんに伝えた。

また、別の小学1年生の児童の好きなことを発見しようと向き合ったところ、「バランスボール」と「アンパンマン」が好きだということが分かった。アンパンマンの曲を弾きながら、飛び跳ねてもらおうと、跳びながら叩くことをとても楽しそうにやってくれた。子どもたちには、一人一人の音があり、テンポがあり、そこに寄りそうことが大切であることを学んだ。その中でも一人一人違って、その子どもにはその子どものテンポがあり、その中で自分の力をつけていくことを子どもたちから教わった。

6) ママ笑顔! Keep on smiling

母として、息子にできることを追い求めてきた。字が書けるよりも大切な力を身につけてほしいと思った。上履きをきれいにする、自分の出来ることをする土曜日、水をどこまで入れるかなどの「生きる力」を身につけてほしいと考えた。

そして今現在、息子は作業所で、苗をそだてる仕事をしている。その息子が「この道とおる」の歌を「僕が作曲した」と言ってくれた。この歌には「彼なりに道を通って来た、これからも通る、頑張ろう」の意味があると思う。

今まで、息子は私が暗い顔の時は「ママ、笑顔」、「ママ家族だよ」と言ってくれてきた。そこで、「笑顔の魔法」(未発表の新曲)を作曲した。

○高橋先生の演奏

「笑顔の魔法」



○高橋先生の演奏と共に、本学の学生代表と来場者全員で合唱

「旅立ちの日に」の歌

終わりに

講演当日、本学学生のお母様から高橋先生へのお手紙を頂きました。

偶然にも、学生の母親が高橋先生の教え子であり、先生のお人柄や「旅立ちの日」の素晴らしさを伝えてくださいました。

「旅立ちの日に」が私たちの心と心を繋ぐ大切なものであること、そして歌の素晴らしさや歌の背後には見えない先生方の愛や努力があることに、改めて感動いたしました。

高橋先生、ありがとうございました。



(文責 埼玉純真短期大学 持田京子)

レジュメ

2022年11月5日(土)
(15:20~16:50)

埼玉純真短期大学 第10回特別支援教育・発達障がい研究セミナー
「特別支援教育への思いと挑戦～インクルーシブ教育の実現を目指して～」

講演

音楽で心と心を繋ぐ ～「旅立ちの日に」その後～
高橋 浩美(前埼玉県立秩父特別支援学校教諭)

- 1) はじめに
- 2) 人生を変えた曲との出会い
- 3) 「旅立ちの日に」(ありがとうの歌)ができるまで
- 4) 特別支援教育との出会い
- 5) 魔法の声かけ
- 6) 心を耕す 素晴らしい感性を育てる
- 7) 生きる力をつけることの大切さ
- 8) ママ 笑顔! Keep on smiling
- 9) 終わりに

旅立ちの日に

作詞：小嶋 登

作曲：坂本 浩美

白い光りの中に 山なみは萌(も)えて
遥かな空の果てまでも 君は飛び立つ
限りなく青い空に 心ふるわせ
自由を駆ける鳥よ 振り返ることもせず
勇気を翼にこめて 希望の風にのり
このひろい大空に 夢をたくして

懐かしい友の声 ふとよみがえる
意味もないさかいに 泣いたあのとき
心かよったうれしさに 抱き合った日よ
みんなすぎたけれど 思いで強く抱いて
勇気を翼に込めて 希望の風にのり
このひろい大空に 夢をたくして

いま 別れるとき
飛び立とう 未来信じて
弾む若い力信じて
このひろい
このひろい 大空に

いま 別れるとき
飛び立とう 未来信じて
弾む若い力信じて
このひろい
このひろい 大空に

アンケート報告

原口 政明

第10回研究セミナー一般参加者

1. 一般参加者

講座参加 44名
講演参加 44名
男性 12名
女性 32名

2. 年代

① 10才代～20才代 7名
② 30才代～40才代 21名
③ 50才代～60才代 13名
④ 60才以上 3名

3. 所属

①一般 1名
②保育所 4名
③幼稚園 0名
④こども園 9名
⑤小学校 7名
⑥中学校 8名
⑦高等学校 3名
⑧特別支援学校 5名
⑨施設 0名
⑩関係機関 3名
⑪学生 1名
⑫その他 3名

4. セミナーの情報収集

①学校（園・教委）をとおして 27名
②地域の会館等のチラシから 0名
③地域の研究会等の活動から 0名
④知人や友達から 9名
⑤大学から 4名
⑥その他 4名

5. 参加の感想をお聞かせください。

(1) 講座（大石先生）について

①とてもよかった 39名
②よかった 4名
③まあまあだった 1名
④少し物足りなかった 0名

⑤期待したものになっていなかった 0名

(2) 講演（高橋先生）について

- | | |
|------------------|-----|
| ①とてもよかった | 39名 |
| ②よかった | 3名 |
| ③まあまあだった | 1名 |
| ④少し物足りなかった | 0名 |
| ⑤期待したものになっていなかった | 0名 |

(3) セミナーの運営について

- | | |
|-------------|-----|
| ①とてもよかった | 38名 |
| ②よかった | 4名 |
| ③まあまあだった | 0名 |
| ④少し改善した方がよい | 1名 |
| ⑤改善を希望する | 0名 |

(4) 参加しての感想、次回の企画、要望、気づいたこと等について

○講座（大石先生）

- ・大変勉強になりました。
- ・「まずは姿勢をつくる」というお話が心に残りました。現在、盲学校に勤務しており、全盲の小5男子の担任をさせていただいています。生まれた時から、物や人を見たことがない方への支援の一つとして、「姿勢をつくる」ことはボディーイメージを持つための手立てになりそうです。ありがとうございました。
- ・何度か聞いているお話でした。でも、繰り返し学ぶことで、少しずつ実践が増えると思っています。
- ・わかりやすく講義してくださり、ありがとうございました。
- ・保育園からの相談についてのエピソードがとてもすばらしかったです。
- ・指示をそもそも定着させるための「構え」を作ることの大切さ。その子の持ち味を知ることから始める。特性に応じた万人のための学校を作るための個への関わり方と学校の財産としての取組。
- ・とても聞きやすいスピードで、わかりやすいお話でした。子ども達がアクティブリスニングできるよう、まなざし、笑顔を研究したいです。
- ・発達段階に応じた育む力、教師の負担感のない全員でできる取組のヒントがたくさん詰まっていました。ありがとうございました。
- ・何度聴いても、大石先生の声には癒されます。授業のアイデアが浮かびます。教室の困っている子達を大切に、またがんばろうという意欲がもてました。ありがとうございました。
- ・一度では、もったいないほどの内容でした。また機会があるとうれしいです。
- ・先生のお話をうかがい、新しい視点で保育に取り組んでいこうと思います。
- ・大石先生の語りはテンポや間合いが大変聞きやすかったです。質問したいことが多すぎて、勇気が出ず、手を挙げられず残念でした。
- ・子ども達の意識と身体の動きとの連動・関係性について、改めて重要だということを感じることができてよかったです。

- ・今後の授業に役立てる内容もたくさんあり、とてもよかったと思います。
- ・教職員に伝えていきます。
- ・新しい情報を聞くことができ、勉強になった。
- ・児童との関わり方がわかった。
- ・また講座があればお聞きしたいです。
- ・子どもへの指導の仕方や先生の指導一つで、子どもは変わっていくことが改めてわかり、これからの保育に役立てていこうと感じました。
- ・保育者の働きかけによって子ども達の育ちに大きな変化を与えること、特別なことでなくても、子ども達の声に耳を傾ける、温かいまなざしを向けるなど、明日から実践できることを取り入れて、子ども達に寄り添っていきたいと思いました。勉強になることがたくさんありました。高等学校でも充分活用できる視点があり、他教員と共有したい。
- ・スクールカウンセラーとして、小中高の先生方と困り感を共有し、解決していく上で、貴重な講義となりました。ありがとうございました。お話の仕方（声の調子など）がとても快く感じました。
- ・子どもへの接し方の大切さを改めて実感しました。
- ・わかりやすくとても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・児童生徒との関わり方について新たな発見がたくさんあった。子どもの主体性を伸ばす教育に取り組む必要があると感じた。障害児教育の重要性に気づき、今後学び続けたい。

○講演（高橋先生）

- ・心洗われるすてきなお話でした。私も明日からがんばりたいと思いました。
- ・知的障害の特別支援学校は、毎日、目が回りますね。今日は、先生のパワーと癒しをたっぷりいただきました。学校に戻ったら自慢します。
- ・こんな思いで教師になったなあと思う部分が多くありました。先生の仕事のすばらしさが実感できる現場でありたいです。
- ・とてもすばらしいです。ありがとうございました。
- ・「心を育てる」「好きなところを見つける」というお話が強く残りました。
- ・感動でいっぱいでした。
- ・担任を持った子たちのいろいろな思い出がよみがえりました。一人一人を大切にされている先生のご様子がよくわかりました。
- ・とても楽しみにきました。先生のお話とても参考になりましたし、生の演奏も聴けて有意義なひとときでした。勝手ながら先生にご縁を感じました。私は狭山市の東中のそばに住んでおり、長男は閉校と同時に卒業しました。閉校式で、先生作曲の Song is my soul を歌いました。今、自治会の合唱団でも Song is my soul は歌い続けています。
- ・障害はあっても感性を育てることはできる。その子のすてきな所をみてよりそってあげる原点だと思いました。我以外みな師なりですね。
- ・私の大好きな卒業ソングです。あたたかいお話ありがとうございました。
- ・直接先生のお話を聞いてうれしかったです。
- ・教育エピソード、子ども個々に寄り添うといった内容、息子さんのお話は参考になりました。
- ・大好きな思い出の「旅立ちの日に」を生で聴くことができ本当に感動しました。ありがとうございました。
- ・高橋先生の歌や演奏がとてもすばらしかったです。
- ・教職員に伝えていきます。

- ・感動しました。ありがとうございました。
- ・歌って声を出すと気持ちが良いと感じた。
- ・歌には人を動かす力がある。本気で伝えれば、子どもたちに伝わる。保育で伝えていこうと思います。
- ・高橋先生の言葉や優しい雰囲気にもまれて、子ども達への接し方を見直すよい機会となりました。素敵なお話をありがとうございました。
- ・とても感動するご講演でした。高橋先生のご経験は今に生きており、改めて教育はすごいと思いました。
- ・先生が最後におっしゃっていた生きづらい子ども達を支える一人として、子ども達一人一人を大切に一緒にがんばっていきたくと思います。
- ・「旅立ちの日に」は本当に大好きな曲です。いつも涙がこぼれます。この曲を作った先生に会えてすごくラッキーです。
- ・講師の人柄と素直な感性に心惹かれました。子どもに真剣に向かう大切さを改めて学びました。
- ・明るく楽しく参加できました。ありがとうございました。
- ・様々な経験談から、これから障害児教育に関わっていくので、知識を活かしたいです。関わらうえで、子どもに寄り添うことと音楽の重要性を学ぶことができました。

○運営

- ・大変お世話になりました。月曜からまた実践していきたいと思います。
- ・ありがとうございました。学生さんたちに丁寧に対応していただきました。
- ・大学の職員のみなさん、学生のみなさん、丁寧な運営ありがとうございました。
- ・貴重な機会をいただき、今回参加させてもらえてとてもよかったです。ありがとうございました。
- ・特別支援教育に万能薬はない。視覚的支援がなぜ必要か、テンポを合わせる必要がなぜ必要か、その子一人一人の「感性」「特性」を大切にすることが重要だと改めて感じました。
- ・心が動く、心が熱くなる講演でした。また明日からもがんばれる力になりました。本当にありがとうございました。
- ・寒かったです。ありがとうございます。
- ・特別支援教育セミナーには何度か参加させていただいています。今後も継続していただけたらうれしいです。
- ・貴重な機会をいただきありがとうございました。学びを深め、活かしていきたいです。
- ・貴重なお話をありがとうございました。子どもたちに寄り添うということを改めて考えさせられました。
- ・とても温かい雰囲気の中の講座・講演をどうもありがとうございました。
- ・とてもすばしかったです。次回も是非参加したいと思いました。
- ・すばらしい時間をありがとうございました。
- ・貴重なお話を聞くことができ、とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・とても貴重なお話をたくさんお聞きすることができました。ありがとうございました。
- ・準備ありがとうございました。本当に参加してよかったです。
- ・鳥のさえずり、コスモスの花のかわいらしさ、すてきな環境を準備してくださり感謝です。講義の内容もすばしかったです。ありがとうございました。
- ・とてもすばらしいセミナーに参加できてとてもよかったです。ありがとうございました。

あしがき

第10回埼玉純真短期大学研究セミナーが皆様のご協力を得まして成功裡に終わることができました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

今回のセミナーは、コロナ禍により3年ぶりの開催となりました。しかも、参加者を50名限定とし、午後のみでの半日開催といたしました。今回は、教職員の自らの研究実践を踏まえた特別支援教育についての実践発表はかありませんでしたが、「特別支援教育への思いと挑戦」～インクルーシブ教育の実現を目指して～と題し、その道に優れた実績を持つ指導者をお招きし、貴重なご意見を頂戴することができました。また、たくさんの地域の皆様のご参加を得て、多くの学びを得ることもできました。縮小しての開催となりましたが、開催できたことにほっとしているところでございます。

このセミナーを開催するに当たりましては、埼玉県教育委員会、羽生市教育委員会、加須市教育委員会、行田市教育委員会、熊谷市教育委員会、秩父市教育委員会、埼玉県特別支援教育研究会の皆様にご後援を賜り、またご指導いただき、さらにチラシのご案内等にまでご協力いただき心から感謝申し上げます。

近隣市町村をはじめ青森県や東京都からもご参加いただき、実施できたことに喜びと地域への役割を改めて実感しているところでございます。さらに、講座においては立教大学現代心理学部教授大石幸二先生からは、子どもたち一人ひとりが実り多い人生を歩み、幸せを実感しながら他者と生きていくために私たちは何ができるかについての示唆をいただくことができました。また、講演においては、前埼玉県立秩父特別支援学校教諭高橋浩美先生から、音楽と特別支援教育、そして子育てについての愛情あふれるお話から、希望と勇気をいただくことができました。重ねて御礼申し上げます。

本学の研究につきましては、日々研鑽を重ねているところですが、このセミナーを機会にさらに努力していきたいと考えています。

今後とも特別支援教育の要となって地域に引き続き貢献していきたいと考えているところで

す。これからもご支援ご協力の程、よろしく願いいたします。

第10回研究セミナー実行委員長 原口 政明

第10回（令和4年度）埼玉純真短期大学研究セミナー報告書

発行日 令和5年1月31日

発行者 埼玉純真短期大学

編集 埼玉純真短期大学研究セミナー実行委員会

連絡先 〒348-0045 埼玉県羽生市下岩瀬430番地

TEL 048-563-0711

印刷所 福田印刷所



埼玉純真短期大学